



## 男鹿で「ナメダンゴ」が獲れました！

和名：ナメダンゴ

学名：*Eumicrotremus taranetzi* Perminov

地方名：—

大きさ：体長63mm，全長75mm

採集日：2012年3月9日

採集地：男鹿市女川沿岸 水深10m

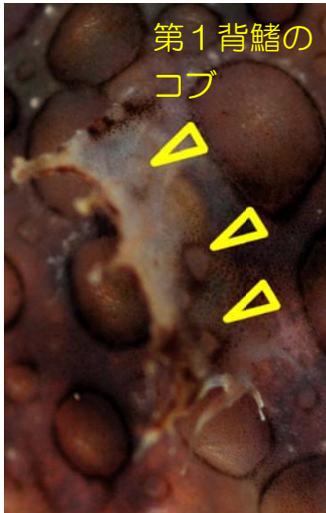
採集法：刺し網（に掛かった海藻に紛れていた）

水産振興センターに活きた「ナメダンゴ」が持ち込まれました。採集したのは男鹿市女川の漁業者、菅原養一さんです。本種はダンゴウオの仲間で、丸っこく愛らしい体型から北日本のダイバーには大変可愛がられている種類です。水深100m以深に生息していますが、春先にだけ卵を産みに浅瀬にやって来ます。この個体も腹が大きく膨れていたことから、産卵直前のメスだったようです。

この魚、オホーツク沿岸、タタール海峡、千島列島沖、カムチャツカ半島沿岸などに分布する北方性の種です（中坊 2000）。秋田県沿岸では2006年3月24日にも男鹿半島沿岸水深60mで採集例がありますので、産卵期が本県沿岸でも寒冷な時期に当たることから、秋田にも希に来遊するものと考えられます。



背面から見たナメダンゴ



本種の近縁種には「イボダンゴ」がありますが、第1背鰭には、ナメダンゴよりも多くのコブがあることで区別されます。また、秋田沖で希に採集される「コンペイトウ」は、第1背鰭が小さくほとんど目立たないことから、イボダンゴやナメダンゴと区別できます。

腹部の吸盤の力はかなり強く、水槽の壁に張り付くとなかなか引きはがせません。本種のオスはこの吸盤を使って岩などに張り付き、岩や二枚貝の殻に生み付けられた卵を守り続け、孵化を見届けてから死にます。海の中の生物は、小さいものから大きいものまで、種として生き続けるために、実に不思議でよく考えられた(?)生態を持っています。